

1. 同志社女子大学

テーマ	観光を通じた地域連携プログラムの実践事例 ー北海道富良野地域における持続的な課題解決型学習のあり方ー	
発表代表者	天野 太郎:同志社女子大学 現代社会学部社会システム学科 教授	
連名発表者	東浦 蒼依:同志社女子大学 現代社会学部社会システム学科 3年生 大垣 舞依:同志社女子大学 現代社会学部社会システム学科 3年生 笹沼 栞那:同志社女子大学 現代社会学部社会システム学科 3年生	
キーワード	観光学	地域連携
	持続可能性	観光動画
発表の概要	本報告は、2004年から20年間にわたり北海道富良野地域において持続的に継続してきている、地域活性化や観光のこれからのあり方を考える地域連携教育プログラムについての報告である。これまでの教育プログラムの目的設定や課題についての概観とともに、2023・24年度に実施した観光動画作成のプロセスを通して、地域課題の解決方法や地元行政、市民団体との協働のかたち、さらには近年全国各地で課題となっているオーバーツーリズム解決にむけた可能性についての報告を行う。	

2. 京都外国語大学・京都外国語短期大学

テーマ	学生が将来を描けるコミュニティ通訳者育成プログラム	
発表代表者	佐藤 晶子:京都外国語大学 英米語学科 教授	
連名発表者	河野 弘美:京都外国語短期大学 キャリア英語科 教授 アイシュワリヤ・スガンディ:京都外国語大学 英米語学科 准教授 戸田 行彦:京都外国語大学 英米語学科 講師	
キーワード	コミュニティ通訳	多文化共生社会
	地域連携	キャリア形成
発表の概要	第29回FDフォーラムポスター発表にて次の2課題が浮かび上がった。 ①コミュニティ通訳の認知度を教職員で広める。 ②外国語大学卒業後の進路として「コミュニティ通訳者」育成を目指し、近隣地域や社会に貢献する人材を育てる方法を検討する。 本ポスター発表では、それらの課題点に着目し、2024年度に実施したコミュニティ通訳の認知度を広める活動を通して、学生と教職員のコミュニティ通訳に対する認知度にどのような影響があったかを報告する。また、コミュニティ通訳の専門6領域の現状を可能なかぎり把握し、その結果をまとめ、2025年度の広報に活用すべく、学生が描く未来の自分と京都外国語大学のコミュニティ通訳育成者プログラムとの関連性を強めるシステムについて考察した結果を紹介する。 コミュニティ通訳の専門領域の調査のまとめは、2025年度に学生にむけた更なる具体的な認知度をより広める活動に活用していく予定とする。	

3. 龍谷大学

テーマ	ICT 活用教育における学修成果の可視化による主体的な学びへの効果	
発表代表者	栢木 紀哉:龍谷大学 経営学部 准教授	
連名発表者	西岡 久充:龍谷大学 経営学部 教授 林 千宏:龍谷大学 経営学部 講師	
キーワード	ICT 活用教育	学修成果の可視化
	主体的な学び	アンケート調査
発表の概要	近年、学校教育において、学修成果の可視化に関する議論が活発に行われている。大学教育においても、学修者が「何を学び、身につけることができるのか」を明確にし、学修の成果を学修者が実感できる教育の実現が求められている。経営学部では、学生のオフィス系ソフトウェアの習熟度とICT に関する学習経験の把握を目的として、入学直後に「基礎能力判定試験」を実施している。本報告では、「基礎能力判定試験」の結果を視覚的に確認できる形で学生にフィードバックして学修計画を立てさせることで、学生の ICT 活用に対する学修意欲や主体的な学びにどのような影響を及ぼすのかについて分析を進めた結果を報告する。また、評価項目ごとに求められるスキルレベルを分析し、過年度との比較を通して、どのような変化がみられるのかを検証する。	

4. 京都産業大学

テーマ	グローバルコモンズ学生ボランティアスタッフ「LINK」実践報告 ～主体的な活動を通じた学生の学び～	
発表代表者	ハフマン 美亜 京都産業大学 教育支援研究開発センター事務局(グローバルコモンズ)職員	
連名発表者	中村 真聡:京都産業大学 国際関係学部国際関係学科 4 年 コウ キドウ:京都産業大学 外国語学部アジア言語学科 日本語・コミュニケーション専攻 4 年 原田 優音:京都産業大学 外国語学部ヨーロッパ言語学科 スペイン語専攻 3 年 栗山 愛彩:京都産業大学 外国語学部英語学科 イングリッシュキャリア専攻 2 年 山元 柊奈:京都産業大学 外国語学部英語学科 イングリッシュキャリア専攻 2 年 杉江 昌子:京都産業大学 教育支援研究開発センター事務局 グローバルコモンズ 学習支援担当 レイシー アンドレア:京都産業大学 教育支援研究開発センター事務局 グローバルコモンズ 学習支援担当	
キーワード	学生スタッフ	グローバルコモンズ
	主体的な学び	異文化交流イベント
発表の概要	京都産業大学グローバルコモンズ(GC)の学生ボランティアスタッフ「LINK」は、「学内にグローバルマインドを広げること」をミッションに、2021 年 4 月に活動を開始した。活動開始当初から継続して開催している英語ディスカッションイベントをはじめ、参加者の興味やニーズに合わせて、様々な多言語イベントや留学生を対象とした異文化交流イベントを実施し、自身と参加者の語学力や異文化理解力の向上を目指している。本発表では、英語ディスカッションイベントと異文化交流イベントに焦点を当て、LINK が楽しく活気あるイベントを継続的に実施するために行っている工夫やメンバー間の協力体制、参加者ニーズを反映した改善努力について紹介する。また、アンケート結果を基に、イベントが参加者の成長と学びにどのように貢献しているかを分析し、学生の主体的な取り組みの実践例として発表する。	

5. 同志社女子大学

テーマ	学科開講インターンシップにおける実習－和菓子屋での起業体験－	
発表代表者	大倉 真人：同志社女子大学 現代社会学部社会システム学科 教授	
連名発表者		
キーワード	インターンシップ	実習
	起業体験	和菓子屋
発表の概要	近年において日本社会は急速なスピードで変遷しており、それに伴い人々の働き方にも大きな変化が生じている。その潮流の中で、自らが企業を設立する「起業」に転じる人も少なくなく、起業された企業の中には、新しいアイデアや独自の技術などを武器に大きく成長を遂げたものも少なくない。さらに女性による起業が増加傾向にあり、これによって「女性の視点」を活かしたビジネスが誕生し続けていることも無視できない。 本報告では、上で述べた背景を基礎に発表者が 2024 年度に授業担当教員をつとめた所属学科で開講されたインターンシップ(和菓子屋での起業体験)における実習の内容を紹介するものである。なおこのインターンシップは、京都府城陽市にある「御菓子司 松屋」の協力の下、起業の全体像を体験的に知るとともに、マーケティングや損益計算といった起業において個別に必要とされる知識についても学ぶ機会を与える内容となっている。	

6. 龍谷大学

テーマ	DP の実質化を目指した、学生本人による学修状況可視化ツールの開発	
発表代表者	築地 達郎：龍谷大学 社会学部 准教授	
連名発表者	出羽 孝行：龍谷大学 文学部 教授 栢木 紀哉：龍谷大学 経営学部 准教授 寺川 史朗：龍谷大学 法学部 教授 只友 景士：龍谷大学 政策学部 教授 瀧本 真人：龍谷大学 国際学部 教授 生駒 幸子：龍谷大学 短期大学部 准教授	
キーワード	DP 卒業時の到達目標を達成するために必要な学修	学生が DP と各科目の関連を把握する
	自身の学修状況を把握	
発表の概要	この研究は、学生が各年次やセメスターにおいて、DP(卒業時の到達目標)に対する自己評価を行い、その差を埋めるために必要な学修内容を主体的に認識できるよう支援することを目的としています。現在、本学の DP は科目と紐づけて学生に提示されていないため、学生が日々の学習の中で DP を意識し続けることが困難な状況にあります。そこで、他大学の DP 提示状況を調査し、それを参考に本学の DP 提示状況を検証しました。その結果を基に、社会学部コミュニティマネジメント学科において、学生が自身の学修状況を自己点検できる「DP 概要版」を作成し、Excel のレーダーチャート機能を用いた可視化ツールを試行しました。このツールにより、学生が自らの学修成果を測定し、主体的な学びを促進することを期待しています。	

7. 京都産業大学

テーマ	グローバルコモンズ学生ボランティアスタッフ「LINK」実践報告 ～多言語イベントを通じた学生の主体的な学び～	
発表代表者	杉江 昌子 京都産業大学 教育支援研究開発センター事務局(グローバルコモンズ)職員	
連名発表者	船山 凌雅:京都産業大学 外国語学部 ヨーロッパ言語学科 ロシア語専攻 4年 吉本 航基:京都産業大学 外国語学部 ヨーロッパ言語学科 ロシア語専攻 4年 河野 聖 :京都産業大学 外国語学部 ヨーロッパ言語学科 ロシア語専攻 4年 レイシー アンドレア:京都産業大学 教育支援研究開発センター事務局 グローバルコモンズ 学習支援担当 ハフマン 美亜 :京都産業大学 教育支援研究開発センター事務局 グローバルコモンズ 学習支援担当	
キーワード	学生スタッフ	グローバルコモンズ
	主体的な学び	多言語イベント
発表の概要	京都産業大学グローバルコモンズ学生ボランティアスタッフ「LINK」は、2021年4月の活動開始以来、語学力向上や異文化理解を目的とする様々な語学イベントを学生主導で実施し、学生同士が学びあい、交流できる場を提供してきた。当初は英語ディスカッションイベントが中心だったが、2022年11月にロシア語による会話イベントの開始を契機に、ドイツ語やスペイン語など、多言語イベントが次々とスタートした。今年度は、交換留学生の協力の下、ポーランド語や韓国語のイベントも開催した。本発表では、LINK活動のうち多言語イベントに焦点を当て、個々のイベントの成立の経緯や活動内容、参加者の交流の様子を振り返る。特に、興味関心と同じくする者が集う場としての意義、学習意欲や理解度への影響などにも注目したい。活動を通じて得られた成果や成長実感についても報告する。また、今後、イベントを継続させていくための課題と努力についても触れる。	

8. 京都外国語大学

テーマ	コラボレーションと幸福感を _____ と共に	
発表代表者	森 リンジー:京都外国語大学 外国語学部英米語学科 講師	
連名発表者	ガーニ・フィリップ:京都外国語大学 外国語学部英米語学科 講師	
キーワード	幸福・ウェルビーイング	集団効力感
	教育環境の制限	コラボレーション
発表の概要	この発表では、「協力の力」と「幸福感・ウェルビーイング」の関係について探る。本発表は、大学教職員のウェルビーイングの観点を調査した研究結果を基礎としている。これらの結果は、教師の視点が指導効果にどのような影響を与えるかについてのより広範な議論と結びついている。この議論では、「教育環境の問題」、「協力」、「幸福」の関係を検証し、今後の教育環境や教育方法の可能性を探る。個人の取り組み(ミクロレベル)、組織内の取り組み(メゾレベル)、大学レベルや社会全体の取り組み(マクロレベル)を提案することで、協力と幸福を高めるための実践的かつ理論的なアイデアを提示する。教官の幸福に焦点を当てたこれまでの研究成果に加え、学生、職員、大学、さらには地球規模での「幸福感・ウェルビーイング」へと話を広げていきます。	

9. 龍谷大学

テーマ	学生の文章力を支える！ 龍谷大学ライティングサポートセンターによる相談対応と学生スタッフの成長	
発表代表者	島村 健司：龍谷大学 ライティングサポートセンター ライティングスーパーバイザー	
連名発表者	岩間 智昭：龍谷大学 文学研究科 日本語日本文学専攻 博士後期課程 4年生 野間 颯：龍谷大学 文学研究科 日本語日本文学専攻 博士後期課程 2年生 笹原 有貴：龍谷大学 文学研究科 日本語日本文学専攻 博士後期課程 1年生	
キーワード	ライティングサポートセンター	スチューデントジョブ
	ループリック	アカデミック・ライティング
発表の概要	龍谷大学ライティングサポートセンターでは、大学院生のライティングチューターが中心となり、龍谷大学生のレポートや卒業論文など文章作成にかんする相談を受けつけている。相談対応においては、答えを教えたり押しつけたりするのではなく、相談者の考えを尊重し、課題解決の方向性を一緒に探る姿勢を大切にしている。また、当センターでは、ライティングチューターに対するサポートとして、定期的な研修のほか、学期ごとに、ループリックを活用してチューターが自己評価を行い、自身のチューターとしての成長度や大学院生としての成長を可視化している。本ポスターセッションでは、学習支援の観点から相談対応に関するデータを共有するとともに、スチューデントジョブの観点からチューター研修の具体的な取り組みとその成果について紹介する。	

10. 大谷大学

テーマ	文字から視覚へ：学びを変えるビジュアル評価の可能性	
発表代表者	筒井 洋一：大谷大学 非常勤講師	
連名発表者	森崎 恭平：個人事業主	
キーワード	ビジュアルシンキング	認知の多様性
	ビジュアル評価	
発表の概要	本研究は、ビジュアルシンキングを大学教育に導入し、学生自身がビジュアルと文字のどちらで理解が深まるかを認識し、伝統的な文字表現を好むか、ビジュアルで表現することを好むかを知ることで、自分の学びの特徴を把握した。授業では、三角や四角などの基本形を使い、素早く絵としてアウトプットする方法を学んだり、ワークでビジュアルシンキングを実践し、学びを視覚的に表現しやすいかどうかを探った。これにより、認知の多様性を尊重し、学生の得意不得意に合わせた学びを可能にし、毎回の振りかえりシートにも文字だけでなく、ビジュアル表現も加味したことで、文字評価以外にもビジュアル評価の可能性について探求した。	

11. 京都華頂大学・華頂短期大学

テーマ	大学生・短期大学生のメンタルヘルスおよびストレス対処の現況 ーメンタルヘルスリテラシー教育の導入に向けてー	
発表代表者	渋谷 郁子:華頂短期大学 幼児教育学科 准教授/ 京都華頂大学・華頂短期大学教育開発センター 主事	
連名発表者	上田 有里奈:京都華頂大学現代生活学部 准教授/ 京都華頂大学・華頂短期大学教育開発センター 研究員 根岸 裕子 :京都華頂大学現代生活学部 教授/ 京都華頂大学・華頂短期大学教育開発センター 研究員 渡邊 雄一 :京都華頂大学現代生活学部 准教授/ 京都華頂大学・華頂短期大学教育開発センター 研究員	
キーワード	メンタルヘルス	ストレス対処
	メンタルヘルスリテラシー教育	
発表の概要	メンタルヘルスリテラシー教育の基礎資料を得るため、大学生・短大生 454 名を対象に、メンタルヘルス、ストレス対処、スマホ依存、睡眠時間、相談相手の有無に関するオンライン調査を実施した。その結果、メンタルヘルスは学科による違いが見られ、全体の約 10%の学生に気持ちの落ち込みが顕著であることが判明した。ストレス対処では、メンタルヘルスリスクが高い学生は「逃避と抑制」といったネガティブな対処を用いる傾向がみられた。睡眠に関しては、平日にはリスクが高い学生の睡眠時間が短い、休日の差はなかった。相談先については、メンタルヘルスリスクが高い学生は相談先が限られる傾向があった。スマホ利用では、学校種や学科による差はなかったが、41.2%がスマホ依存の疑いがあり、メンタルヘルスリスクが高い群はその傾向が強いことが示唆された。これらの結果は、メンタルヘルスリテラシー教育の導入において重要な示唆を与えるものと考えられる。	

12. 龍谷大学

テーマ	学生の授業観察にもとづく授業改善	
発表代表者	寺川 史朗:龍谷大学 法学部 教授	
連名発表者		
キーワード	学生参画	授業改善
発表の概要	本学では、2021 年度・2022 年度に「学生による授業観察」プロジェクトを実施し、その成果を基に 2023 年度から「学生による授業観察に基づく授業支援」を全学で推進しています。2024 年度はこの取り組みの 2 年目となります。 観察を実施する学生は事前研修の機会があります。 1 回目:授業観察の目的や手段、シラバスの読み方などを学ぶ。 2 回目:授業観察のポイントを検討し、学生が自身の経験に基づいて観察ポイントを提案する。 3 回目:実際に授業を観察し、報告書をまとめる。 なお、3 回目の研修で作成した報告書は、研修を担当する教員からフィードバックがあり、観察を希望した教員に意図が伝わる表現方法などを学びました。今後も教員がこの事業を利用し、学生の視点に基づく授業改善を進めていく予定です。	

13. 京都産業大学

テーマ	広がる！学生ファシリテータの活動 ～集まる多様なモチベーション～	
発表代表者	大島 和美：京都産業大学 教育支援研究開発センター事務室(F工房)職員	
連名発表者	高丸 奏太：京都産業大学 経営学部 2年次 今村 湧亮：京都産業大学 法学部 2年次 大吉 桃花：京都産業大学 経済学部 1年次	
キーワード	学生ファシリテータ	多様なモチベーション
	活動の場の拡がり	ボランティア
発表の概要	学生ファシリテータ(以下、学ファシ)とは、初年次向けの授業を中心にグループワークの円滑な進行をサポートするボランティアの学生スタッフである。アイスブレイクの進行や受講生同士の話し合いのサポートを通して学生の主体的な学びを支援している。 学ファシの活動には必須参加の活動と任意参加の活動があるが、任意参加の活動の幅が広がっている。学内の授業支援や中学校の校外学習に協力するなど学内外から依頼を受けて活動することに加え、他大学の学生スタッフとのワークショップや学園祭での出展など学ファシが自ら活動の場をつくることも増えた。しかしこれらの任意の活動は人によって参加頻度に差が生まれている。そこで私たちは、学ファシの活動へのモチベーションや抱く想いは一様ではなく多種多様なのではないかと考え、調査を行い考察した。	

14. 京都ノートルダム女子大学

テーマ	メタバースを駆使した学外連携および教育連携の実践紹介 ～メタバースサークルの2年間のあゆみより	
発表代表者	濱中 倫秀：京都ノートルダム女子大学 社会情報課程 准教授	
連名発表者	渡邊 詞水：京都ノートルダム女子大学 現代人間学部 生活環境学科4年次生 昌子 綾花：京都ノートルダム女子大学 現代人間学部 心理学科3年次生 尾崎 日沙乃：京都ノートルダム女子大学 社会情報課程 2年次生 小山 うらら：京都ノートルダム女子大学 社会情報課程 2年次生 馬場 万鈴：京都ノートルダム女子大学 社会情報課程 2年次生	
キーワード	メタバース	出前授業
	高大教育連携	VR
発表の概要	web3.0 の時代を見据え、メタバースの活用が様々なシーンで見られるようになっていく。従来のオンラインコミュニケーションツールとの違いは、アバターと呼ばれる自分の分身が仮想空間内で様々なコミュニケーションをする点にある。今回の発表では、メタバースサークルの立ち上げから今日に至るまでの授業その他学外との連携事例を紹介する。特に学外との連携では、初めて医療系の学会(年次集会)の広報にメタバースを活用するサポートを行った。また、特に高校への出前授業をはじめとする事例と今後の可能性も考察したい。	

15. 龍谷大学

テーマ	自主的 SD「龍谷未来塾 2024」の活動を通じた事務職員の資質向上に向けた取り組み	
発表代表者	岡田 雄介:龍谷大学 入試部／高大連携推進室 事務部長	
連名発表者	杉山 聖子:龍谷大学 心理学部教務課 課長 原田 正誓:龍谷大学 REC 京都 課長 奥 昌浩:龍谷大学 学長室(広報) 進藤 弘樹:龍谷大学 学長室(企画推進) 曾田 源 :龍谷大学 入試部 長屋 綾乃:龍谷大学 瀬田キャンパス推進室 野村 大慈:龍谷大学 入試部 森本 彩花:龍谷大学 学生部	
キーワード	私たちはどう生きるか？	高等教育の展望
	次世代への継承(フューチャー・デザイン)	大学職員のこれから
発表の概要	今、高等教育は少子化の進行を背景に、未曾有の危機を迎えている。過去の経験則で未来を見通すこともできない。今後、多くの大学が学生募集停止や廃止に直面する「大学淘汰の時代」が現実となった。しかし、学内において、一人ひとりの構成員は不安を覚えつつも、我が事に落とし込むに至っていないのが現実であった。こうした状況を踏まえ、①外部環境の変化を正しく理解し学内外へ啓発すること、②今後、厳しい時代を生きる若い世代を育成すること、この二点を目的に事務職員共同研修企画「龍谷未来塾」を立ち上げ、「危機を正しく認識し、私たちはどう生きるか？」という共通テーマの下、「高等教育の危機」と「大学改革の要諦」について、4つの視点から考察すべく、学内外への SD 公開講演研修会を開催した。 延べ 1,100 名を超える参加者を集め、時宜を得たテーマとして多くの耳目を集めたが、自主的 SD 活動「龍谷未来塾」の成果と課題について、広く共有したい。	